

助けを必要とする家庭が増えている。

令和3年度の市内における新規虐待発生件数は90件と

過去最多であった(グラフ1)。

市は、家庭を取り巻く環境の変化に対応するため

平成31年度から「島田市版ネウボラ」を開始。

担当保健師が各家庭を継続して支援することで

お互いに顔の見える関係を構築し

子育てに励む一人一人に寄り添う。

これにより、家族関係や親の心身の

問題などを素早く察知し、

複雑なケースにも対応している。

しかし、困ったときの支えを

行政だけで担うことは難しい。

周りの協力や地域のつながり、

民間事業者の力も欠かせないだろう。

特集では、さまざまな視点から

子育てのあり方を捉え直すことで

私たちにできることは何かを考える。

# 特集 寄り添いいろいろ



母子健康手帳の見本。  
最後のページに、担当  
保健師の名前が記  
載されている。



グラフ1 市内における新規虐待発生件数の推移  
(子育て応援課の資料を基に作成)



一人一人との対話から

顔の見える関係をつくる

「ネウボラ」とは、フィンランドの母子保健システムのこととで「アドバイスの場」を意味する。同国では、保健師が担当する家族と早期から信頼関係を築くことで、家族の抱える繊細な問題をいち早く発見し、迅速に支援できることから、深刻な児童虐待の発生は極めて少ない。

市では、このエッセンスを取り入れ「島田市版ネウボラ」として開始。妊娠から始まり、出産後の赤ちゃん訪問や子どもの健診の面談などを、同じ保健師が継続的に担当する。保健師は家庭環境や保護者の考え方、子どもの様子をよく理解した上で対応できるように、親から身近な相談相手として認識されやすくなった。

島田市独自の取り組み

ネウボラの

今

島田市版ネウボラは、今年で4年目。保健師をより身近な存在に感じてもらうため、それぞれの家庭と対話を重ねる。

- 保健師と関わる定期的な機会
- 【妊娠期】
- ① 母子健康手帳交付
  - ② フレッシュユ!! パパママ教室  
(初産婦の希望者)
  - ③ はじめのいっぱい講座  
(初産婦とそのパートナー)
- 【出産後】
- ④ 新生児訪問
  - ⑤ 4か月児健診※
  - ⑥ 離乳食講習会
  - ⑦ 7か月のFamily Day
  - ⑧ 10か月児健診※
  - ⑨ 1歳6か月児健診
  - ⑩ 3歳児健診
- ※医療機関へ委託するもの。







森未華さん (金谷泉町)



田中浩平さん (横井四丁目)



清水祐子さん (中央町)

## 実際に聴いてみました パパ・ママの 声

市内在住の3人の親取材し、それぞれ子育ての中で学んだことや気付いたことを語ってもらった。

❶ 誰かに頼みたいことや相談したいことは

森さん／買い物や代わりに行ってくれたり、子どもを自宅で見てくれるサービスが気になっていました。

田中さん／そろそろ離乳食を始めるので、実践的な学び場があるとうれしいです。

清水さん／現状、家族以外の人に頼っていいものなのか迷いがあり、遠慮してしまいます。

❷ ネウボラについて

森さん／健診などで面談する際に、私たちのことを覚えてくれていて、安心感があります。

田中さん／決まった保健師が、自分たちのことを気に掛けてくれるのは心強いです。気軽に会える機会が増えるといいなと思います。

清水さん／身近な存在という強みを生かし、保健師と親だけでなく、親同士も交流できるようなコーディネートすれば、地域に住む子育て中の家庭ともっとつながりを持てそうです。

❸ 苦労したことは  
森さん／県外出身で、最初は身近に頼れる人がいなかったため、心細かったです。  
田中さん／子育て・転職・引っ越しの時期が重なり、余裕が無かったことです。妻の負担も大きかったと思います。

❹ うれしかったことは  
森さん／重い荷物を持ってくれたり、道を譲ってくれたり、地域の人の優しさに触れられたことです。  
田中さん／息子と散歩していると、近所の人から見守りの声を掛けてもらえることです。  
清水さん／園で他の子どもたちと仲良く過ごしていることを先生から聞き、日々成長していることを実感します。

## 親が気軽に頼れる存在であり続けたい



大嶽美咲 保健師  
— 健康づくり課

また、オンラインの子育て支援プラットフォーム「しまいく+」では、お手元のスマートフォンから保健師とチャットで相談できます。また、乳幼児健診の日程変更や対面相談の予約を、24時間いつでも申し込むことも可能です。

私たちが担当保健師をより身近に感じていただき、安心して子育てができるよう、これからも切れ目なく支援できる体制をつくっていきます。

☎ 34-3285

📍 健康づくり課

「どこに相談したらいいかわからない」「こんなことでも相談していいか不安」「少し話を聞いてほしい」と思うことでも、話すことでさまざまな発見につながりますので、お気軽にご相談ください。

しまいく+がもっと便利に！  
11月から、育児サポーター利用申し込みや言語・発達などの相談予約などの新サービスを追加予定。詳しくは、しまいく+のウェブサイトへ。



### 保健師のある1日の動き

- 8:30 朝礼
- 8:35 担当内で打ち合わせと情報共有
- 9:00 事務作業
- 9:30 訪問する親子の体調確認と出発準備
- 10:00 赤ちゃん訪問(発育・発達の確認、健診・予防接種の案内など)
- 11:30 事務作業
- 12:00 昼食
- 13:00 家庭訪問(養育環境の確認など)
- 15:00 事務作業・窓口対応
- 17:15 退庁



離乳食や宅食、お茶などのノンカフェイン飲料を全国へ配送・販売しています。

学生時代から同世代との対話や、シングルマザー・貧困家庭との関わりを通して、満足に子どもを育てることの難しさを肌で感じていました。子育ての苦労や責任、仕事との両立など、親が抱えるものは多すぎるのです。その余裕の無さが子どもに悪影響を与えてしまう状況を、何とかしたいと思うようになりました。

「子育て」とは、子どもが周囲の影響を受けながら自発的に育っていくことをいいます。発達領域でよく使われる言葉ですが、子育てについて考えるときは、親だけでなく子どもの通う園や学校、地域住民などを含む社会的視点も必要だと思えます。「育てる」ではなく「育つ」という目線で子どものことを考えてみると、多くの登場人物が見えてきますか。そこで課題となるのが、周囲への配慮や規範意識から、しつけのために子どもの好奇心（遊びたい欲求など）を阻んでしまうということ。もちろん、しつけは大切なことですが、もし過度に怒りをおつけてしまったら、お互いにもつたいな

い気がしますよね。

以上のことから、親が自由に使える時間・考えを巡らす精神量を確保できれば、子どもを温かく見守りやすくなると考えました。離乳食事業から着手したのは、1000組以上の家庭に話を伺った結果、親にとって食事の支度、引いては離乳食を作ることが、共通して負担になっていることを改めて感じたからです。ただ、健やかに育ってほしいという思いがあるため、それでも、どんな食材を使ったか分かる手作りを好む傾向にありました。そこで、安全安心な離乳食を提供することで手に取ってもらいやすくなると考え、弊社の製品は、全て国産有機野菜を使用。野菜それぞれの産地や生産者を紹介し、食材の見える化に努めています。また、野菜を茹でるのではなく蒸すことで、栄養とうまみを閉じ込めたり、ミキサーではなくプレス機を使うことで、繊維を潰さずに食感も楽しめるようにしたりと、加工方法にもこだわっています。こうした取り組みを重ねて、市販品でも安全安心なものがあることを知ってもらおうと、離乳食を作らずに買うという選択がしやすくなれ

ばうれしく思います。子どもは、大人の背中を見て育ちます。過ごす時間はもちろん、親が最も多いことでしょう。まずは、何の時間を置き換えられるのか、考えてみませんか。子どもにとってストレスフリーな環境について考えてみるのが、子育ての糸口となるはず。 Kazamidori についての詳細は、左のQRからホームページをご覧ください。



久保直生さん(株)Kazamidori 代表取締役社長

子どもにとってストレスフリーな環境が「子育て」を後押しする





# HOUSEWORK



藤森ちひろさん(家事代行サービス こあら)

## 私じゃなければできないことを するための選択肢として

市内を拠点として、主に志太榛原地域を対象に家事代行サービスを提供しています。事業のきっかけは、自分の子育て経験。近所の人がついでに欲しい物を買っておいてくれるなど、周りの力を借りたいと思ったときに、協力してくれるありがたさを感じていました。また、家事が苦手でイライラしてしまうことがあります、誰かにやってもらいたいと思うこともありました。当時、家事代行業者は市外にはあるものの、遠方のた

め気軽に頼みにくい状況だったことを覚えています。あるとき、友人から「また働きたいとは思っているけど、免許や資格があるわけじゃないからね：」という話を聞きました。でも、家事をこなすことはすごいことだし「手に職」と言える気がしたんです。

こうしたことから、家事代行で親の負担が減れば、子どもといられる時間が増えると考え、昨年12月に「こあら」を立ち上げました。現在、25人のスタッフと仕事をしています。依頼内容は、夕食の下ごしらえ・庭の草取り・買い物・衣類の整理など、各家庭によってさまざま。まずは、どのような家事を頼みたいかをしっかりと確認します。次に、安心して利用できるよう、依頼者とスタッフとの顔合わせを行い、信頼関係の構築を図ります。状況に応じて、他の事業所と連携したり、専門の清掃業者などを紹介したりすることもありますよ。

まだ、他人に家のことを任せるなんて良くないんじゃないかという考えが、地域に根付いているように感じます。何でも自分でやろうと、自らを追い込んでしまう人もいます。でも家事代行は、私じゃ

なくてもできることを人にお願いで、私じゃなければできないことをするための選択肢だと思ってほしい。それは決して、甘えではありません。親子がじっくりと過ごす時間をつくることで、親の心にゆとりが生まれますし、子どもも安心して親と向き合えるのではないのでしょうか。家事代行サービスを選択しやすい土壌をつくるには、私たちの考え方から変えていくことが大切だと思います。さまざま子育てサービスがあることを知ることは、その第一歩でしょう。

今後は、フリーマーケットを開催するなど、子育て世帯が気軽に交流できるイベントを開く予定です。その中で、この仕事の存在をもっと身近に感じてもらえるよう、積極的に発信していきます。たまには家事を誰かに任せて、子どもとの時間をゆとりよく過ごしたいと思ったり、家事代行を気軽に頼める雰囲気、地域の皆さんとつくりたいですね。



こあらについての詳細は、左のQRからホームページをご覧ください。





会長 松浦優子さん  
子育て支援ネットワーク

## みんなで支え合うから 完璧じゃなくていい

島田市子育て支援ネットワークは、子育ての輪を広げていこうという目的で、平成19年度に結成されました。子育てサークル・自主活動団体・地域子育て支援センター・保育園・幼稚園・子ども園・放課後児童クラブなど、市内の子育て支援に関わる団体や関係機関が会員として加入。年に一度の総会や、定期的な情報交換・勉強の場としての全体会などを通して、子育て支援の充実に努めています。

全体会では、児童虐待の現状を共有したり、発達に関する専門家による講義を開催したりして、学びを深めています。会員数は100を超えており、活発に意見が飛び交います。子育ての状況を異なる目線から知ることができ、取



り組みに生かすことができ  
るのが、当ネットワークの最  
大の強みです。また、子育て  
応援メッセージ「ひとりじゃ  
ないでね」をコンセプトに、  
それぞれがイベントを企画  
するなど、自立して活動して  
います。会員同士のつながり  
も深く、イベントで連携した  
り、それぞれの情報を子育て  
中の親に案内し合ったりもし  
ます。私自身も、  
子育て支援サー  
クル「踊る！弾  
む！母部」を運  
営しており、子  
どもと一緒に取  
り組める産後ケ  
アエクササイズ  
やダンスなどを  
行っています  
(写真)。



子育て支援ネットワーク  
についての詳細は、左の  
QRからご覧ください。



子育て支援に取り組もうと  
思ったきっかけは、親だつて  
自分らしく生きていいことを  
伝えたかったからです。私  
は、3人の子どもと夫の5人  
家族。県外出身で、1人目の  
子どもが生まれたばかりの頃  
は、外部との関わりが一切持  
てませんでした。これからは  
母親としてしか生きていけ  
ないと周りから言われてい  
る気がして、見えないプレッ  
シャーを感じていました。伝  
えたいことがあっても言えず  
苦しかったです。そんな日々  
が好転したのは、2人目の出  
産で里帰りしたときに参加し  
た、産後ケアに取り組むNP  
O団体の活動。メンバーと気  
持ちを共有し、受け入れても  
らったことで、悩んでいるの  
は私だけじゃない・一人の女

性として生きていいんだとい  
う勇気をもらえたんです。  
困っている人の助けになり  
たい人は、意外とたくさんい  
ます。手を借りたいと思っ



メッセージのロゴマーク

ら、誰かとつながれるまちだ  
と思います。だから、何でも  
完璧にやろうしなくてもいい  
し、そのままでもいいんです  
よ。困ったときは、少し勇気  
を出して誰かに頼ってみてく  
ださい。きっと、あなたの力  
になつてくれるはずですよ。私  
たちも、行政や関係団体、企  
業と連携し、困っている人に  
手を差し伸べられる地域をつ  
くっていきます。

### 子育ての総合窓口「子育てコンシェルジュ」

☎子育て応援課 ☎ 36-7159

▶子育て家庭やこれから子どもが生まれる家庭が、スムーズに市内の子育て支援サービスを利用できるよう、個々の事情に応じた情報提供や相談対応を行います。個別相談は、随時受け付けています。電子申請なら、いつでも申し込みができます。

対象/妊婦、子育て中の家庭、孫育て中の祖父母 など

相談内容/子育てに関わることなら、どんなことでも

※電話・面談・訪問またはEメールで対応します。

申し込み/右下のQRから電子申請

【相談内容の一例】

- 子育てに不安があるので、話を聞いてほしい
- 一時的に、子どもを預かってくれる場所がありますか
- 自宅の近くに、親子で遊べる場所がありますか
- マイ支援センターについて知りたい





人を頼れる社会が

子育てを優しくする



寄り添う子育て支援の充実が、ますます求められている。市は、島田市版ネウボラ（写真Ⅱ担当保健師）をはじめとした取り組みを推進しながら、家庭とどのように関われるかを模索し続ける。

かつては、親が自力で何でもやるのが当たり前であるといった「あるべき論」が行き渡る時代があったかもしれない。しかし、進む核家族化や共働き世帯の増加のほか、少子高齢社会といわれる現代では、子育てに対しても多様な考えがあつていいはずだ。見えない壁やハードルを乗り越える親の力は、それぞれの事情によって異なる。苦しければ、自分らしく子育てができるよう、周りを頼ってもいい。

時代とともに物事が変わっていくように、子育てに対する「世間の目」一人一人の認識も、変えていく必要がある。それが親にとって、もっと人を頼りやすい雰囲気をつくり、育児に支援や民間サービスなどを使うことへの抵抗感を無くすことにつながるだろう。誰もが互いの立場に寄り添い、さまざまな子育てのあり方を認め合うことができれば、子育てに優しい社会は、おのずと見えてくる。